

第52期 株主通信

平成24年4月1日から平成25年3月31日

TAKAMAZ

高松機械工業株式会社

[証券コード6155]



株主の皆様へ



トップに訊く—The President Talks

代表取締役社長

高松 喜与志

株主の皆様には、平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り、厚く御礼申し上げます。

第52期を振り返りますと、緩やかに回復が続いていた日本経済は、先進国の財政問題や新興国の景気失速の影響を受けて足踏み状態になりましたが、年明け後には、新政権による経済対策や金融政策によって、円高の是正と株価の上昇が進み、先行きの景気回復に期待が高まりました。

工作機械業界でも需要が減少に転じ、月1,000億円を超えていた受注が平成25年1月には700億円台まで落ち込みましたが、その後は緩やかな回復基調へと向かい始めました。結果として平成24年度業界受注総額は、内需・外需ともに前年割れとなったものの1兆1,398億円に達し、3年連続の1兆円超えを記録しています。

当社グループでは、需要をけん引している海外市場への対応強化をはかるとともに、海外進出の積極化をはかっている大手ユーザに対して、当社グループの自動化技術・ノウハウをもって設備投資の最適な提案を行うことで受注獲得に努めてきました。

また需要掘り起こしのため、平成25年2月に本社工場で新製品発表展示会を開催しました。この時期の開催は初の試みでありましたが、国内の主要なディーラー・ユーザに多数ご来社いただき、期待以上の成果がありました。

株主の皆様への配当につきましては、第52期の業績が売上高・利益ともに前期を上回った結果、当初計画どおり前期よりも2円増配した7円とさせていただき、中間とあわせると年間12円の配当となりました。

事業環境の先行きに目を転じますと、不安定要素が多く、不透明感が払拭されませんが、工作機械業界の需要は改善が見込まれていますので、海外体制の強化や国内生産体制の拡充に注力し、需要取り込みをはかります。

当社グループは、将来にわたる企業成長を続けていくために、今後もグローバル化対応や成長領域のものづくり創出を推進していく所存でありますので、引き続きご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



第52期の業績概要について教えてください。

A.

第52期は、売上高150億16百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益10億79百万円(同9.2%増)、経常利益12億43百万円(同14.5%増)、当期純利益8億68百万円(同36.7%増)となりました。当社グループは3つの事業分野に展開しておりますので、それぞれの概況についてご説明します。

①工作機械事業

同事業では、主に中・小型の旋盤を製造し、販売およびサービス・メンテナンスを行っています。

当期は需要が拡大している海外市場の対応強化をはかるため、各地で積極的な営業活動を展開してきたほか、中国の広東省広州市に現地販売子会社の支店を設立し、インドネシアでは現地法人の設立を進めてきました。

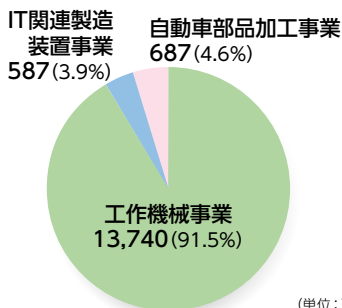
また、海外進出の積極化をはかっている大手ユーザに対して、当社グループの自動化技術・ノウハウをもって設備投資の最適な提案を行うことで受注獲得に努めてきました。

生産においては、設計や組立などで外注を効果的に活用し、より多くの製品の提供をはかってきたほか、能力拡大をはかるために進めてきた本社工場の増築が今年度末に完成しました。

その結果、受注高が112億48百万円

(同2.4%減)、受注残高が39億54百万円(同10.8%減)、売上高が137億40百万円(同5.4%増)、営業利益が10億68百万円(同15.9%増)となりました。また、アジア市場の堅調な推移や北米市場の需要拡大傾向により、外需比率が43.0%(前年同期は41.5%)に増加しました。

■セグメント別売上高構成比



(単位: 百万円)

②IT関連製造装置事業

同事業では、半導体や液晶等の製造ラインに使われる製品のOEM生産を行っています。

当期は中国経済の停滞や製品の在庫調整の影響を受けて当社への発注も減少し、厳しい状況で推移してきましたが、受注確保や新規開拓等の営業活動を積極的に行ってきました。

その結果、売上高が5億87百万円(前年同期比30.4%減)、営業損失が16百万円(前年同期は59百万円の営業利益)となりました。

③自動車部品加工事業

同事業では、スタータ等の自動車部品の加工・一部組付を行っており、完成品は

主に海外で生産される自動車に使われております。

当期は新興国の成長、北米市場の回復、エコカー補助金の効果などから自動車生産が回復してきたことを背景に受注が堅調に推移し、売上高を増加させてきました。また、事業拡大をはかり積極的な営業活動を展開してきたことで新規受注を獲得できました。

その結果、売上高が6億87百万円(前年同期比26.7%増)、営業利益が27百万円(同297.1%増)となりました。

Q.

第53期の展望は いかがですか。

A.

日本経済は、円安による影響や海外経済の持ち直しによる輸出環境の改善を背景に、再び回復軌道に戻ると見込まれています。工作機械業界でも、落ち込んだ中国向けの需要が改善し、また、北米向け需要の堅調さが維持されることが、国内での設備投資意欲向上によって需要が増加していくことが期待されています。

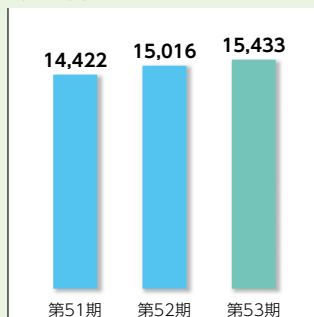
当社グループでも、工作機械事業では足元が弱いながらも、先行きでは、タイやインドネシア等の新興国や、アメリカ、メキシコなどの海外を中心として需要が高まると見込んでいます。

このような状況下での第53期売上高は、前年同期比微増の154億33百万円

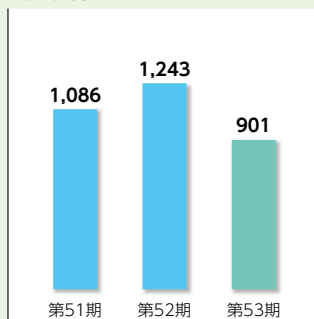
■第53期の連結業績見込み

(単位:百万円)

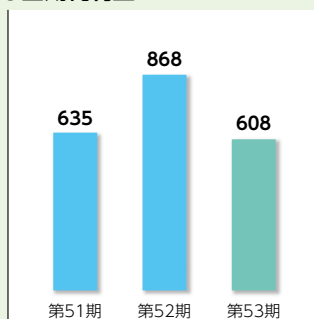
●売上高



●経常利益



●当期純利益



を見込んでいます。しかし、今後の企業成長のために、長期的視点にたつて従業員の増員や設備投資等をはかっていることから固定費や減価償却費等が増加し、営業利益が8億21百万円、経常利益が9億1百万円、当期純利益が6億8百万円と、前年同期を下回る見通しであります。

Q. 最近の海外における事業展開状況を教えてください。

A. 今後の企業成長のためには海外対応力を強化し、増加が見込まれる海外需要の取り込みをはかっていく必要がありますので、各地において体制の強化をはかっています。

中国では、台湾の工作機械メーカーと合併で設立した杭州友嘉高松機械有限公司があり、現地で工作機械の製造を行っておりますが、この度新工場が完成し、平成25年5月より稼働を開始しました。新工場はこれまでに比べて4倍以上の生産能力がありますので、中国市場への供給量増加に向けて体制を整備していきます。

インドネシアでは、平成25年4月に現地法人を設立しました。二輪車の生産が盛んであり、工作機械の需要が高まっていることから、現地における販売およびサービス・メンテナンス体制の強化をはかりました。

アジア以外では、近年はメキシコに多くの日系企業が進出していることから、迅

速な対応と情報収集を行うために営業員を駐在させました。

ヨーロッパでは現地法人と営業所の2拠点で営業活動を行っていましたが、厳しい環境下において効率的な活動を行う体制とするため、営業所を現地法人に統合しました。

また、新規ディーラの開拓や海外展示会への出展を増やしてきたほか、各海外拠点に日本から営業員を派遣して人員増加をはかり、体制を強化してきました。



杭州友嘉高松機械有限公司の新工場

Q. 本社工場の増築を行いましたね。

A. 当社グループにおける過去最高売上高は第47期の162億円ですが、当時の工場はフル生産を続けていました。そのため、過去最高の売上高を超えて成長していくことは現状の設備では厳しく、将来を見据えた上で本社工場の増築に取り掛かりました。

完成した増築工場に物流倉庫などを移すことによって、現工場にこれまでよりも

約2割増の組立スペースを確保しました。今後は、最適な生産体制および物流体制の早期構築と運用をはかって、適切な進捗管理および在庫管理、無駄のない効率的な生産を実現することで、生産量の拡大につなげていきます。

なお、9～10ページに本社工場の増築について取り上げていますので、そちらもあわせてご覧下さい。

Q.

新製品の開発状況を教えて下さい。

A.

最新の開発機種は「XL-200」であり、平成25年5月に開催されたMEX金沢2013にて初披露しました。当社製品ラインナップの中でも大きい部類であります。展示会での評判は上々で、販売開始に向けてテストを進めています。

また、新製品発表展示会で発表した「XW-130」は、クラス最速のローディングタイムとサイクルタイムを実現した機種であり、特に量産加工を行うユーザにおい



MEX金沢2013で展示した新製品「XL-200」

て、大幅な生産性の向上をはかることができます。

ユーザニーズを満たす新製品の開発・提供は、当社の根幹をなすものであり、今後も積極的かつスピーディに行っていきます。

Q.

株主還元策についてお聞かせ下さい。

A.

株主の皆様に対する利益還元は重要課題の一つであると認識しており、安定的な配当の継続と配当性向の向上に努めていく所存であります。

しかし当社は製造業であることから、生産能力を向上させていくための恒常的な設備投資等を行う必要があり、そのための資金が必要となります。また、将来の事業構造の変化にも備えるため、必要な内部留保を行っていきます。

第53期におきましては、当社を取り巻く経営環境と将来に向けた事業規模拡大への取り組み状況を鑑みた結果、中間配当4円、期末配当6円の年間10円を予定しています。前期に比べて額は減りますが、配当性向は前期を上回る予定です。

今後も適切な配当を行っていくために、企業体質の改善強化に取り組み、利益の確保に努めていきます。

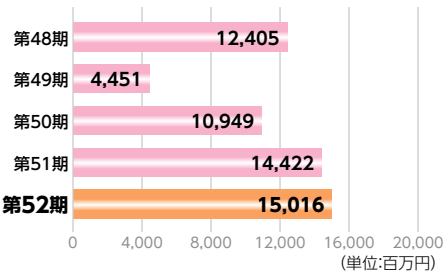
業績の推移

連結業績ハイライト

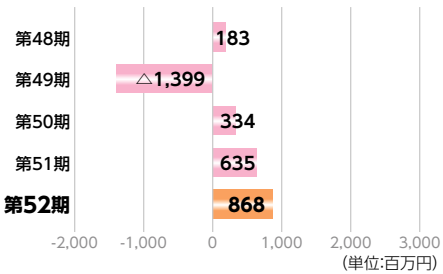
科 目	第48期 (平成20年度)	第49期 (平成21年度)	第50期 (平成22年度)	第51期 (平成23年度)	第52期 (平成24年度)
売上高 (百万円)	12,405	4,451	10,949	14,422	15,016
営業利益又は営業損失(△) (百万円)	382	△ 1,737	83	988	1,079
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	434	△ 1,495	132	1,086	1,243
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	183	△ 1,399	334	635	868
純資産額 (百万円)	9,234	7,849	8,129	8,739	9,560
総資産額 (百万円)	12,670	11,339	14,343	15,791	16,499
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	17.02	△ 130.56	31.20	59.16	79.75
1株当たり純資産額 (円)	857.72	727.22	752.50	799.32	876.40

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

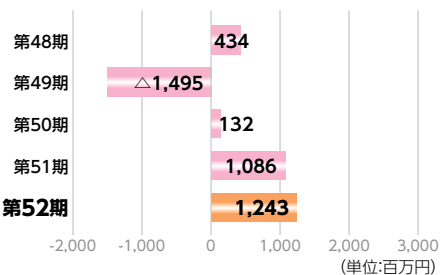
●売上高



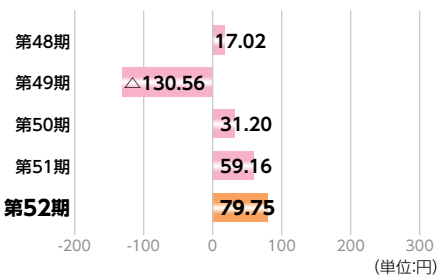
●当期純利益



●経常利益



●1株当たり当期純利益



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (平成24年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成25年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	10,704	10,769
現金及び預金	2,860	3,336
受取手形及び売掛金	5,352	5,111
商品及び製品	410	455
仕掛品	874	768
原材料及び貯蔵品	879	779
繰延税金資産	262	233
その他	69	89
貸倒引当金	△ 5	△ 4
固定資産	5,086	5,729
有形固定資産	4,110	4,502
建物及び構築物	949	1,453
機械装置及び運搬具	725	570
工具、器具及び備品	102	115
土地	2,326	2,326
リース資産	4	30
建設仮勘定	2	5
無形固定資産	68	113
のれん	17	5
リース資産	48	105
電話加入権	1	1
投資その他の資産	907	1,113
投資有価証券	648	846
保険積立金	149	145
繰延税金資産	66	83
その他	43	38
貸倒引当金	△ 0	△ 0
資産合計	15,791	16,499

科 目	前連結会計年度 (平成24年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成25年3月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	5,480	5,375
支払手形及び買掛金	4,080	3,005
短期借入金	829	829
リース債務	11	30
未払法人税等	41	378
賞与引当金	162	115
役員賞与引当金	23	31
製品保証引当金	36	31
その他	295	951
固定負債	1,571	1,563
長期借入金	767	668
リース債務	42	98
退職給付引当金	488	497
役員退職慰労引当金	272	300
その他	0	0
負債合計	7,052	6,938
(純資産の部)		
株主資本	8,687	9,458
資本金	1,835	1,835
資本剰余金	1,826	1,822
利益剰余金	5,089	5,849
自己株式	△ 64	△ 49
その他の包括利益累計額	△ 6	93
その他有価証券評価差額金	44	49
繰延ヘッジ損益	－	0
為替換算調整勘定	△ 50	42
新株予約権	58	7
少数株主持分	0	1
純資産合計	8,739	9,560
負債純資産合計	15,791	16,499

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

科 目	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成23年4月 1 日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日)
売上高	14,422	15,016
売上原価	11,044	11,374
売上総利益	3,378	3,641
販売費及び一般管理費	2,389	2,561
営業利益	988	1,079
営業外収益	121	181
営業外費用	24	17
経常利益	1,086	1,243
特別利益	3	47
特別損失	3	1
税金等調整前当期純利益	1,086	1,289
法人税、住民税及び事業税	54	410
法人税等調整額	395	9
少数株主損益調整前当期純利益	635	869
少数株主利益	0	0
当期純利益	635	868

連結包括利益計算書

科 目	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成23年4月 1 日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	635	869
その他の包括利益	△ 6	99
その他有価証券評価差額金	7	4
繰延ヘッジ損益	－	0
為替換算調整勘定	△ 12	49
持分法適用会社に対する持分相当額	△ 1	44
包括利益	629	969
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	629	968
少数株主に係る包括利益	0	0

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	(単位:百万円)	
	前連結会計年度 (自 平成23年4月 1 日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月 1 日 至 平成25年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	958	750
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 100	△ 310
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 425	△ 223
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 9	36
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	423	252
現金及び現金同等物の期首残高	1,230	1,654
現金及び現金同等物の期末残高	1,654	1,906

(注) 各計算書において、記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

本社増築工場のご紹介

当社は生産・物流体制の強化をはかるために昨年春から本社工場の増築計画をスタートし、今年3月末、ようやく完成を迎えることができました。

工場の増築によって、従来の組立スペースが約20%拡大し、生産量の増大を実現できます。

ここでは、完成した増築工場（長さ約135m、幅約20m）の主な特徴をご紹介します。



2ヶ所にした受入場



大型の立体自動倉庫



立体自動倉庫を動かすと…



すばやく部品が出てきます

まず、増築工場の正面入り口に大きな荷受場を作り、これまで1ヶ所だった部品の受入場所を2ヶ所にして、部品受入時の混雑を分散化しました。

工場内には大型の立体自動倉庫を設置し、今まで各フロアに分散して置かれていた在庫部品を収納して、フロアスペースの有効活用を実現しました。この大型立体自動倉庫は従来のものに比べてクレーンの速度が倍以上も速く、連続して部品の出し入れができるので、非常に短いサイクルタイムで部品の出し入れができるようになり、作業効率が格段にアップしました。さらに新しい在庫管理システムを導入したことで、より確実な在庫状況の把握ができるようになりました。

また、これまで本社工場から車で15分ほど離れたところにあった横江工場(旧板金製造部)を増築工場に移転しました。板金部品の運搬作業の短縮化はもちろん、同じ敷地内で作業をすることで板金加工担当者と製品開発担当者との交流がはかれ、開発段階で様々な構想を生み出せるようになり、コストダウンを実現できるようになります。また、増築工場には横江工場の約2.7倍の板金スペースを確保し、今秋には高性能レーザー加工機を導入するなど、板金生産の拡大と効率化をはかっていきます。

増築工場の屋上には全国初の薄層・軽量型の屋上庭園を設置し、社員が自由に屋上へ出入りできるようにしました。天気の良い日に屋上に上がれば、暖かい日差しを受けながらみずみずしく光る花々や美しい白山連峰を眺



ローズマリーなど9種類の花が咲く屋上庭園



天気の良い日は日本三名山の白山が見えます



板金に穴をあけるパンチングマシン



板金を曲げるプレスブレーキマシン

めることができます。社員は昼休みや休憩時にここへ立ち寄り、気分をリフレッシュさせて作業に取り組んだり、新たな機械の開発に精を出しています。当社ではこのような屋上緑化だけでなく、本社工場全体でLED電球の採用やエアコン室外機の省エネルギー冷却装置導入を行い、省エネや地球温暖化防止にも取り組んでいます。

平成26年度には現在の精密加工室を旧倉庫に移転し、製品の展示スペースを拡大するなど、ショールームの充実化も計画中です。

工場増築によって新たに生み出されたスペースや既存の工場を効率よく活用し、今後により良いTAKAMAZ製品の生産に取り組んでいきます。

トピックス

本社にて新製品発表展示会を開催

平成25年2月15日、16日の2日間、本社工場にて新製品「XW-130」をお披露目する「新製品発表展示会」を開催しました。会場には主力製品である「XY-120PLUS」や関連会社の製品など8機種を展示しました。

開催2日間で約700名ものディーラ・ユーザーにご来場いただき、会場は大盛況でした。

商談ブースでの営業マンの熱心なPRが実を結び、127台の引合と46台の受注を獲得することができました。



多くの来場者で溢れる会場



PRにも力がいります!!

海外展示会に出展

フランス南東部の都市・リヨン近郊で毎年開催されるINDUSTRIE LYON 2013(リヨン国際見本市)が平成25年4月16日～19日の4日間で行われました。この展示会は、フランス国内で最大規模の展示会であり、毎年多くの来場者が訪れます。今回は850社が出展、2万人以上もの来場者が訪れました。

当社は「XB-1000」、「XC-100」の2機種を出展し、製品のPRを行いました。特に「XB-1000」はデザイン性、操作性ともに来場者の注目度も高く、今後の欧州市場での拡販が期待できる1台となりそうです。

また、平成25年4月22日～27日の6日間にわたって中国・北京にて開催されたCIMT2013(中国国際工作機械展覧会)では、「XL-150」、「XY-120PLUS」、「XY-2000PLUS」の3機種を出展しました。開催初日はあまり天候に恵まれず来場者数の減少も心配されましたが、6日間で約20万人と予想以上となり、特に現地の方々が多く来場して、活気ある商談が繰り広げられました。



INDUSTRIE LYON2013



CIMT2013

MEX金沢2013に出展

北陸で最大規模の機械工業見本市であるMEX金沢2013が平成25年5月16日～18日の3日間に開催されました。当社は展示会初披露となる「XL-200」をはじめ、「XB-1000」や「XW-130」などを出展し、会場を賑わせました。5月の暖かい陽気の中、会場はたくさんの来場者で埋め尽くされ、当社ブースにも多くの方々立ち寄り下さり、絶え間ない商談の中、多くの受注をいただくことができました。



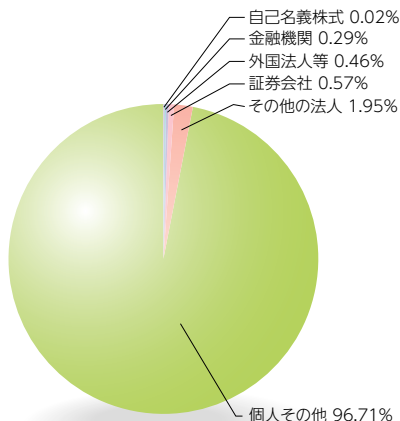
興味深く機械を覗き込む人々

株式の状況 (平成25年3月31日現在)

株式の状況

- ①発行可能株式総数……………30,000,000 株
- ②発行済株式総数……………11,020,000 株
- ③1単元の株式数……………100 株
- ④株主数……………3,494 名

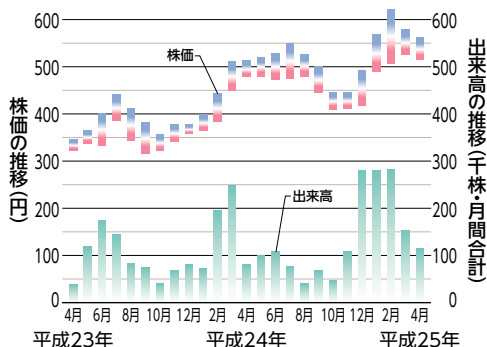
所有者別分布状況



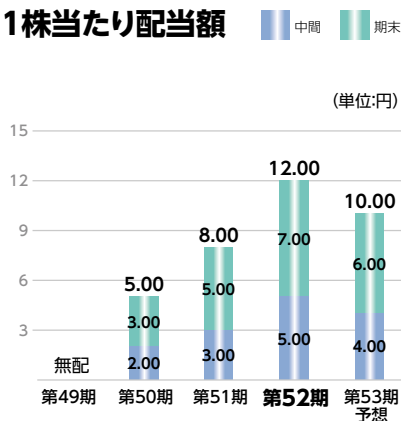
大株主

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	持株比率(%)
高松機械工業取引先持株会	849	7.71
株式会社タカマツ	810	7.35
日本生命保険相互会社	480	4.36
北国総合リース株式会社	433	3.93
高松機械工業社員持株会	433	3.93
株式会社北国銀行	408	3.70
株式会社朝日電機製作所	361	3.28
明治安田生命保険相互会社	360	3.27
三井住友海上火災保険株式会社	333	3.02
高松明毅	330	3.00

株価インフォメーション



1株当たり配当額



会社の概要 (平成25年3月31日現在)

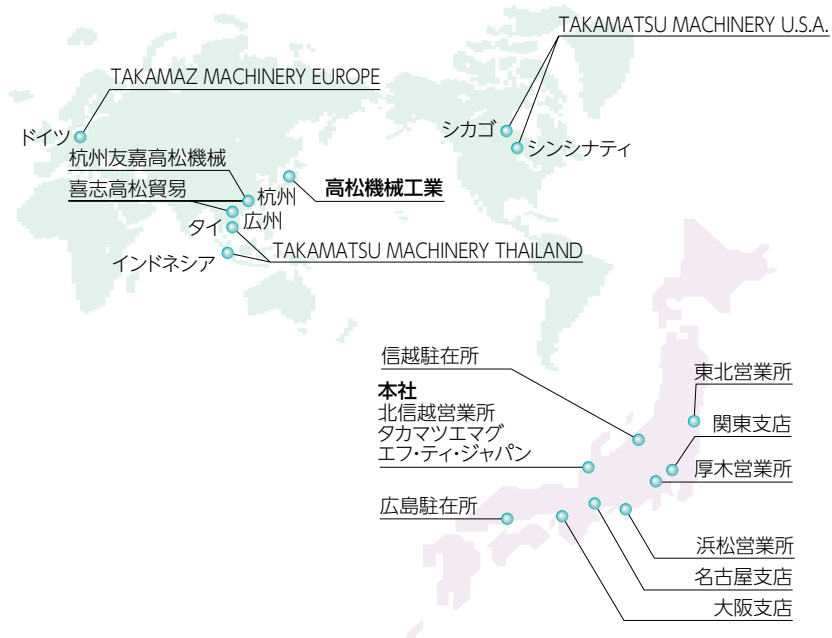
会社概要

商	号	高松機械工業株式会社
設	立	昭和36年7月
資	本	金 18億3,539万円
本	社	石川県白山市旭丘1丁目8番地
従	業	員 数 420名
子会社および関連会社		TAKAMATSU MACHINERY U.S.A., INC. TAKAMATSU MACHINERY (THAILAND) CO., LTD. TAKAMAZ MACHINERY EUROPE GmbH 喜志高松貿易(杭州)有限公司 株式会社タカマツエマグ 杭州友嘉高松機械有限公司 株式会社エフ・ティ・ジャパン
ホームページアドレス		http://www.takamaz.co.jp

役員 (平成25年4月1日現在)

代表取締役社長	高 松 喜与志
専 務 取 締 役 (生産本部長兼新分野事業部担当)	前 田 充 夫
専 務 取 締 役 (営業本部長兼部品事業部担当)	中 西 与 平
常 務 取 締 役 (管理本部長兼品質保証部担当)	溝 口 清
取 締 役 (管理本部総務人事部長)	宮 川 隆
取 締 役 (生産本部技術部長)	徳 野 穰
取 締 役 (生産本部製造部長)	中 川 進
取 締 役 (営業本部海外営業部長)	高 松 宗一郎
取締役 (社外)	中 西 祐 一
常 勤 監 査 役	池 上 佳 信
監査役 (社外)	鍛 治 敏 弘
監査役 (社外)	杖 村 修 司

ネットワークとサービス体制 (平成25年4月1日現在)



本社工場(工作機械事業)



第2工場(コレットチャック生産)



第3工場(自動車部品加工)



開発センター(IT関連製造装置)

製品のご紹介



NEW XL-200

従来機の多彩なオプション対応を継承しながらも、同等フロアスペースで、より大型ワークへの対応が可能。
使い易さも向上し、高効率な生産を実現します。



NEW XW-130

従来機の評定ある機械剛性はそのままに、機械幅は20%コンパクト化、加工能力は60%アップ。
新開発の自動化装置で業界最高クラスの生産性を実現しました。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月中

株主確定基準日 (1) 定時株主総会 3月31日
(2) 期末配当金 3月31日
(3) 中間配当金 9月30日
(4) その他必要ある時 あらかじめ公告して定めた日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡下さい。

株主名簿管理人 および 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎0120-782-031

(インターネットホームページURL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用していなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社ホームページに掲載 <http://www.takamaz.co.jp>

上場証券取引所 東京証券取引所市場第二部

お問い合わせ先 管理本部 企画経理部

TEL 076-274-1411〈直通〉 FAX 076-274-1418



TAKAMAZ
高松機械工業株式会社

r2100
UD FONT

このパンフレットは再生紙を使用しています。

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

